加治木町政だより

発行所
加治木町役場
発行人　岩元房友
編集者　原田広道
印刷所　吉屋印刷所
向江町　電話 114番

家庭で圖書館の本が讀める
加治木『讀書友の会』
＝新生活運動の一環として　加治木圖書館が贈る＝

加治木図書館の利用者は文化の進運につれて日に増加しつゝありますが御多聞に漏れずその七〇%は学生や生徒で占められています。図書館はこゝに省み日頃多忙な為に図書館に足を運び得ない人々の為に〝本を家庭まで配達する〟方式をとり出來るだけ多くの人に讀書していたゞきたいとの念願から加治木「讀書友の会」を作ることにした次第であります。

家庭の御婦人方や御主人方共他青年男女の方々急がしい毎日の生活の中に十分間でもいゝ一人だけの時間を作つて深く考へつゝ書を讀む工夫をして頂きたい。又昔英國人が親から子に子から孫にロビンソンクルーソーを爐邊に讀みきかせ語りきかせて英國々民性の基盤を作つたように日本人の生活の中にも何か実のある深いものがあるようにと念願しています。

御贊同の向は左記運營方法を御諒承の上御加入下さいますことを御勸めいたします。

御加入の会員には詳しい規約を配布いたします。

記

一、配本返本の方法

(イ)配本する図書は原則として圖書館の圖書を之に充てる。

(ロ)会員には図書目録を配布し希望図書予約の便を圖る。

(ハ)貸出は一回一冊とし月三回配本する。

(ニ)圖書の返納は配本の際行う。

(ホ)希望図書の予約は第三希望まで所定の申込書に記入し配本の際配達員に渡す。

二、會員

一人一ケ月五十円とし一ケ月分づゝ前納する

三、配達員

圖書配達のため配達員を雇入れ会費は配達員の報酬と余裕あるときは会員多数の希望する圖書の購入に充てる。

会員希望者は加治木圖書館に申込み下さい！

十月一日零時を期して
國勢調査を行います

第一回目の國勢調査は大正九年に行はれましたが、それからほゞ五年ごとにこの調査は実施されて来ました。昭和三〇年度國勢調査は、第八回目の調査にあたります。

この調査は短期日の間に可成り複雑な事項をしかも極めて廣範囲にわたり近く任命される一〇二名の調査員の質問調査によつて調査することになりますがこの調査が所期の目的を達成するかどうかは、ひとえに町民皆様の御協力いかんによるものと思つております。よき結果が得られるよう切にお願いいたします。

では次に調査の場所とか、方法等について二、三述べることにします。

一、国勢調査とは何か

國勢調査は統計法の定めによつて行はれる國の基本的な統計調査で全國の人口の状況を調べ、政治や行政のための基礎資料となる統計をつくるために行はれるものであります。

二、調査の範囲

十月一日に国内に住んでいる人の全部で、日本人はもちろん外國人もすべて調査します。しかし駐留軍等は除きます。

三、調査の場所

その人がふだん住んでいる世帯でまとめて調査します。すなはち、まず世帯をもれなく調べ、つぎにその世帯にふだん住んでいる人（世帯員）をもれなく調べるという仕組みになつております。

◎世帯にふだん住んでいる人とは

その世帯に三ケ月以上住んでいるか、あるいは三ケ月以上に亘つて住もうと思つている人のことです。たま〳〵旅行や出かせぎなどで不在であつても不在期間が三ケ月以上にわたらない人は、その世帯にふだん住んでいる人になります。しかし下宿して通学する学生、入院患者、船舶乘込者、自衛隊員、刑務所收容者、旅藝人等調査については特例がありますがこの点は調査員にわかつて戴くことにします。

四、調査の方法

◎準備調査

九月二十四日→九月三十日まで

調査員が十月一日前に各世帯に調査票を配ります。

◎実地調査

十月一日→十月三日

調査員は三日間で調査を完了します。

五、何を調査するか

1、氏名
2、世帯主との続柄
3、男女の別
4、出生の年月日
5、配偶の關係
6、國籍

調査票が配られたら右六項目について各世帯主で記入します。

7、～13まで調査員が質問によつて調査記入します。調査項目は、一週間の就業状態、事業所の名称、事業の種類、仕事の種類、従業上の地位、住居の種別、たゝみ枚数等であります

以上　（統計主事）

◉豆知識◉

健康管理上覚えておきたい數

◉健康人の生理衛生について色々な標準の数字を覚えておくと役に立つ

肺活　男3.000～.4000
　　　女　2.000～3.000
血壓最高　100～130
　　最底　50～80
脈搏　一分間　70
視力　左右とも　1.2
体温　攝氏35.8～37度（腋下）
攝氏36～37.2　（口中）
血液量体量の約13分の1
赤血球数男　500万（一立方粍につき
　　女　450万（〃）
白血球数　6.000～8.00（〃）
尿の量　大人一日平均800～1.600立方糎

公營住宅入居者公募
九月二十日まで

昭和三十年度割当三十二戸中第一種木造十戸を現在木田岩原國道筋に建築中でありますが之が十月末完成の予定でありますので唯今役場總務課に於て入居希望者の受付を行なつています。希望者は左記により申込んで下さい。

記

一、入居資格

1、町内に住み又は勤務場所を有する者

2、現に同居し又は同居しようとする家族がある者

3、毎月の収入の合計から扶養親族一人につき千円を控除した額が当該住宅の家賃の六倍以上十五倍以下であつて、家賃を支払う能力のある者、現に住宅に困窮していることが明らかな者

二、申込方法及期限

規定の申込書を九月二十日まで役場總務課へ提出すること（用紙は總務課で受領すること）

三、選考方法

公營住宅入居者選考委員で決定する

四、入居時期

昭和三十年十月下旬の予定

五、家賃其他

大体一二〇〇円程度

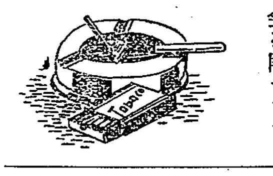
尚詳細については總務課へ問合せ下さい。

★税務課員の苦心★
町税の納期内納入について

終戦以来吾々は堪えがたきを堪え忍びがたきを忍び十年を迎えました。この間の吾々は食糧と納税について最も心を痛めて参りました。幸食糧の方は現在相当に緩和されたようでありますが、税金は今なおお互の苦痛とするところで朝夕吾々の頭痛の種となつております。然しながら吾々の郷土を住みよい明るい町にするために学校の建物や橋の整備、産業の発達改善その他町民の福利増進を圖るのに相当多額の経費を要します。この経費は現状においては町民がおのおのの分に應じて負担するより外に途はありません。この経費の負担を町民に割当てたのが即ち税金であります。わが加治木町の昭和三十年度町税の見込調定額は約三千四百万円になります。これが一世帯當り平均額は七千四百円又一人当りは千六百円の負担となります。この税額は各人の所有財産や収入の程度に應じて法規の定めるところによつて決定されております。若しこれに對して不審の点或は納得のゆかない点がありましたら早目に税務課へお出になつて疑問を解消していたゞきたいと思います以上によつて町税を必要とする理由は御了解のことゝ存じます。町税の町財政確立上占める役割は大きく従つて吾々税務課員の責務は重大でありましてこれが徴收については一方ならぬ苦心をいたしております。町では各税の納期を考え合せ諸種の事業計画を樹立しておりますが、税金が納期間に思うように納付されないと切角町で計画している事業の遂行に支障が生じるのであります。昭和二十九年度（現年度）町税の納付実績は左記のとおりであります。個人において納付すべき税額に對する納期間の納入割合は僅か三割に過ぎず七割は督促状の発布を受けている状態であります。

税務課では、納期限が過ぎると二十日以内には未納者に對して督促状を出さねばならず毎年五月から翌年の二月までは毎月この督促状を書いている実情にありまして、昭和二十九年度に徴收した督促手数料は四十八万六千円（二四、三四八枚）になつております。又督促状の印紙代及び人件費も莫大な額に上つております。納税者各位におかれては經濟上その他の事情のため納税に相当困難せられることは良く察知できますが、何卒税金の「ゆくえ」をよく御理解下さいまして今後納期限までの納入率が向上いたしますよう日掛け、月掛け、心がけの何れかの方法をお択びになりまして完納方お願い申し上げます。昭和三十年度賦課された町税の納期を左記に掲げ納税資金準備や計画に資していたゞきたいと思います。

國勢調査説明會



先般各部落から選出していたゞきました調査員について、近く任命を終り九月中旬調査員説明会を開きます

町税納付實績（昭和二十九年度）

区分	金額（万円単位）	備考
調定額	三、一八一	
收入済額	二、八二七	收入割合八割九分
未收額	三五四	昭和三十年度へ繰越
個人において直接納付すべき税額	二、一七〇	
右納期限後納付額	六五六	納付割合三割
納税組合において納期限内納付税額	四五三	
戸別訪問により徴收した税額	四七七	上記金額の外に過年度分三四八万円を徴收

一、町税の納期

税目	期別	納期限	備考
町民税	二期	八月三十一日まで	税額は何れも第一期分徴税令書に書いてあります。
固定資産税	三期	九月三十一日まで	
町民税	三期	十月三十一日まで	
固定資産税	四期	十二月二十五日まで	
町民税	四期	一月三十一日まで	

二、県税及び国税

事業税	一期	八月三十一日まで
〃	二期	十一月三十日まで
所得税	二期	十月三十日まで

水道便り

配水管布設工事一部完了に就て御知らせ

現在配水管布設工事岩原線（網掛橋左岸より國道を西進、國立加治木療養所迄）を施行中でありますが九月末頃には送水いたす事となります。之に伴い向江町本通り及岩原本通りに面する家屋には水道引込みが出来ますので給水希望者は町水道係へ御申し越し下さい。係といたしましては、給水申し込みを受け付けますと速に設計をし概算工事費をお知らせいたすことにしております。

めざまし
チチの日
父？牛乳？

ある若妻、この前の土曜日の夕方、役所から帰つた良人に「ねえあなた、明日田舍へ行つて来てもいゝでしよ」…「なんだい急に思いだしたように」…「だつて、あしたは母の日ですもの、この間妹からお母様も近頃では大分体が弱くなつたから達者な内に会いに来てやつてくれつて手紙が来たんですもの、カーネーションでも持つて会いに行つてあげたいの……」いけないとも云えないので……「あした日曜だから僕が留守してやるけど、月曜日には早々帰つて来いよ」、「ええ、いいわ、月曜日には一番で帰つて来るわ」とはしやいで出掛けて行つたが、月曜日の一番どころか、火曜日の終列になつても帰つて来ない

△「亭主に朝飯も食はせないで、何が母の日だ」と不平ブツブツ、毎朝〝牛乳〟丈で役所に出かけながら「フン、こつちはとんだ〝チチ〟の日だ」

◉納める税に治まる加治木

◉ふだんの貯蓄で明るいわが家

生立ちから今日迄

—(自由放送)—

町長　緒方明男

大正二年三月二十四日これが私の生年月日である。勿論私はこの日に生れたのかどうか全然覺えていない。もと〳〵私は苦勞するように生れている。

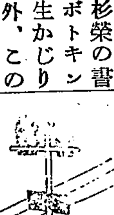
父は、町内日木山楠原で富農として可成り知られていた山下家の三男坊山下三五郎の長男としてウブ湯を浴びたわけであるが、殘念ながら親父(私から言えば祖父)と母親私の祖母)が、意見衝突の結果夫婦別れして私の父は母親につれられて溝邊村長谷(現在加治木町長谷)の実家緒方万治郎家に歸つてしまつた、其の後縁ありてこの祖母は小山田中郷の松葉瀬次郎助の家に私の父をつれて再婚しこゝで一生を終えたのであるが、父親は少年時代「てしけはしけくらまぬ」ぼつけもんで母親もこれには手をほとほとやいて、溝邊方面に十二三才頃かと思うが下男にやられこゝから父親の苦闘は始まつたといわねばならぬ。大体当時の溝邊村の富農層は自からは菜だけの御はんといつてもよい位、ガランピュは一匹を二人で分けてとゆう具合に粗食であり、下男はかまどの下でカラいものゆでたやつを更らに火にあぶつて食つて働きつゞけたとよく話して聞かさゝれるものであつたこうして約十数年後四十円位で既設の建物を買つて、現在の小山田布越に居を定めこゝで私共兄弟九人の子供が生れ其の長男が私である。現在兄弟は末に生れた妹と結局三人生き殘つている)。父系母系共農村としては可成りの富農であり乍ら私の父だけは全然財産は與えられなかつたので、すね一本うで一本で母と共に筆舌に盡し難い辛苦の中に次々に生れてくる私達兄弟妹九人を育てねばならなかつた。

完全に育てばよかつたのであるが、好事魔多しでなく貧乏に附きものゝ不幸は避けられず、先づ最初の災難は大正一五年九月一二日三女が死亡、昭和六年五男全十二年三女全十八年四男全一九年二男全二十四年長女と天災災難、病氣などで次々に死亡、其の間百姓にとつては家頭として大事な馬の死亡も四、五回あつて文字通り惡戦苦闘の連続であつたわけである然しこの私の両親にしては不思議な程熱心なものが一つあつたそれは学校教育に對する熱意であつた。不幸な生立を骨の髄から味わい小学校(当時は四年制度だつたと思う)も腕白と持前のきかぬ氣からろくろく通学せずだつた父が、子供だけについては異常な程の教育熱を持ちお蔭様で八ケ年間一日も欠席せず小学校は卒業さして貰つた。

これは一人両親の熱意だけでなく小学二年のときの又野先生、三、四年の受持の坂元秀一先生(故人荻原出身)、五、六年の荻尾先生、高小一、二年の外山先生の慈愛に満ちた御訓育のお蔭でもあつたことは申すまでもないことである。小学校時代の思い出の二、三としては、高小を卒業するときに白尾先生(健在諏訪)と受持の外山先生と二人が私の家で一杯飲みながら意見の衝突をされたことがある。當時私は龍門小学校の剣道の主將であつたし龍門が始めて始良郡の對抗試合で郡内四校の一校に入つた所謂龍門の剣道の黄金時代の尖端をきり拓いたときでもあつたので、剣道の指導に当つておられた白尾廣先生は、京都の武德関係学校に行けといわれるし、外山先生は、剣道で一生を過させる人間でない満鉄に入つて実際と勉强とを一所にせよとゆう主張で、どちらも讓られず遂いに白尾先生が学校關係の入学志願書をずたずたに破つて棄てられたことや尋常六年のとき荻尾先生が長い間病氣で、子供心に心配して級友と語り合つて卵を持寄つてもつて御見舞したこと、高小二年のとき担任不在で主席であつた楠森一二先生(故人)が巡視される前に教室の入口のドアの上に黒板ふきをはさんでおき、先生がドアをあけられた途端頭に黒板ふきが落ちて頭から顔面一杯に眞白になられ乍ら一言も發せずじろ〳〵生徒を見廻しておられたので犯人の私は身のおき所がなく顔面を火の様にしながらうつむいていた所、其のまゝ先生は去つて行かれたので、それから翌朝迄考えに考え抜いた結果自首しようと決心し、翌朝先生の登校をまつてお詫びしたところあべこべにほめられ朝禮の席上で大變正直な奴だとほめられた事を時々憶い出しては一人で反面忸怩たるものがあると同時に、にが笑をしている次第である。六月のとき、ぎしんでんの夜四、五人の級友と校庭の片隅みでたばこをふかしてばれて罰當番を一週間ぶつつゞけにくらつたことなど……など忘れることの出来ない惡い思い出である。

小学在学当時からあこがれの仕事は鉄道であつたわけであるが、其の方面に知人がいないので父親から大先輩の岩澤藤夫さんの事も、はげましの言葉として度々聞かされた一應卒業と全時に始良郡役所に入らして貰う心算で受驗に應じた所運惡くすべつてしまつて、神戸の親類を賴つて上神、四月末であつたので目星しい仕事先もないまゝとある藥局で働かしてもらつたが、どうも商賣は生れつき駄目で間もなくやめて親類のお世話になりつゝ玄米パン賣りなどしつゝあつた眞夏のほんの夜たべた西瓜に腹をこわして夜半から猛烈果敢な下痢が起り出し赤痢と判定されて、翌日市役所の車で神戸の東山醫院に入院させられ約十五日療養、全快後歸郷、どう考えてみても鉄道に入りたくてたまらぬので、神戸の従兄が仕事の関係で知つているとゆう神戸鉄道商工務課庶務係長伊藤さんにたのんでもらうよう再文通中、十月一日に從兄よりすぐ上神せよとの電報で十月四日再び神戸に着き翌五日あこがれの鐵道管理局の試驗官の前に立つたわけである。應募者も多かつたが、何だか自信があつて最後の口答試問のとき「お前は車掌の様な仕事やどんな苦勞な仕事もやる氣があるか」と聞かれたので「なんでもやります」と答えたところ、心なしか非常に氣に入つて貰つて僥倖にも一人採用されることになつて全く感無量であつた当時の局長は村上義一氏(後の満鉄理事総裁戦後の運輸大臣現存)で私は現場に出されず商工課勤務となり益々感激した私は朝だれよりも早く出勤しだれよりも一生懸命働いたので、殆んど六ケ月毎に上昇がありボーナスも同職の先輩よりも多かつた。その間勉強して大学までは自力で卒業しようと決意して関大の第二商業を志望して受驗してパスし、刻苦精勵して勉強中偶々二年のとき三年生の連中が授業料問題に端を發しストライキを惹起したので、二年の私は最初積極的に動かなかつたのであるが同級生の北海道出身の久積とゆう男外二三名が極力奮起?を促すので止むなく立上り授業料値下げと一先生の罷免とゆう形であつたと思うが、一段落ついて、さて解決後始めて登校してみると「緒方明男退校を命ず」と筆太々に校庭の校舍のまん前にある告知板にはり出しがあるので校長に単身不当處分をせまつたが駄目、やむを得ないと思つて鐵道の寮に引揚げ、つとめに努力中この学校の処分は当然職場にもすぐわかりどうもきまりも惡く、斯うなつたら社会主義の勉强をしようと思い、大杉榮の書いたものやクロポトキンから唯物史観を生かじりする内にこれ以外、この途以外日本民族を救う道はないと確信する樣になり、局内でフラク活動をやり濱口減俸内閣の減俸反對闘争で局員を階上に集合せしめて國鉄争議の火蓋を切り遂いにあこがれの的あこがれの職場国鐵を追はれる結果となつた。

(未完)



傳染病豫防の心得

せきり、日本腦炎に注意しましょう

1、食前と外出から歸つた時は必ず手を洗いましよう。
2、生ものに注意し、食べすぎ、飲みすぎを止めましよう。
3、「はえ」と蚊を驅除しましよう。
4、病氣のうたがいがある時は早く醫者に見せましよう。

◎お母様方の心得

エキリは主として數え年七才位までの子供に起るもので、手当が早ければ治るが、おくれると殆んど助からない。

子供がエキリにかゝると

一、急にグツタリなつて元氣がなくなる。
二、三十九度から四十度の高熱を出す。
◎この場合すぐ醫者にかゝること
三、「はきけ」がしたり、腹痛がする。
◎このころまでに醫者に見せて手當をすれば助かる。
四、ヒキツケたり氣が遠くなつたりする
◎このころはすでに手遅れの場合があるから、万難を排して醫師の診療をうけなければならない。

とにかく何はさておき、先づ醫師に早く診て貰うのが急務であるが、いろいろな事情でそれが直ちに出來ない場合は、醫師にかゝるまでの間、とりあえず家庭で應急手當をしなければならない。先づヒマシ油をのませ、かん腸をして、腸内のものを一刻も早く排出してしまうこと。

教育寸言

加治木町教育長

四才になる男の子が、洋半紙に念入りに犬を三匹画いているのをのぞいて見ると、皆犬の脚が三本ついている。そこで私は「犬の脚は何本あるね」。と、きくと「三本」と答える。何度繰返しても三本だと主張する。そこで私は四本だと訂正してやろうと思つたが直ぐやめた。「そうかなあ、三本かね、お父さんは四本のような氣がするんだけど……こんど犬を見たらよく數えてごらん」、と**そのまま**にしてしまつたところがそれから二、三日たつた或る日。「お父さん、犬の脚は四本よ」、と私の所に教えに来た。私は丁寧に頭をなでながら「そう四本だつたかね。よく見たね、えらいぞ」。とほめてやつた子供自らの体驗と發見の喜びに協力した。

世の中には、

◎そんな間違つた繪はだめだ。
◎ばかなことを言うが三本脚の犬がいるもんか
◎犬の脚は四本に決まつている。サツサと画けと頭からけなしたり、押えつける親があるが[illegible]に新教育法[illegible]拙劣なものである。

此の子がまた四月の末、小さいタケノコを二三本持つて歸つて来た。そして「お父さん、これを花園に植えてもいいの?」とおそるおそる聽くので「あゝそれはいいね、お水をやつてよく育てるんだよ」、と答えてやつた私は植物の根について子供自らの体驗に訴えたかつたからであつた。所が翌日「お父さん、昨日持つて来たタケノコね、あれはお母さんが、「根の無いタケノコは植えてもだめだ。」と言つて捨てられたよ」。と私にため息ついて報告した。私はそれを聽いてほんとにがつかりした。

折角のことに、それを植えさせてみて、だんだんしおれるのをまつて、外の植物の根と比較し、これ位の根ではだめだ、こ地面では、こんな時季では、生き着かない。いやよくついた。等自らの五管を使つて、体得させるのが大切なことであつて、左から右え機械的にうつしたり、おぼえるだけでは何の發見の喜びもなく唯々奴隷であり、もの眞似である。大人の利害観念によつて、純眞な子供の希望や努力や喜びを踏みにじつてはならぬ私はどこまでも子供自らの体驗に訴えることを考える。直ぐそれを教えたり、やめさせたり、けなしたりすることは、まことに易いことである。だが、それは創造発見の喜びに浸らせることは出来ない。子供自身で勉強し、自身が發見し、自身がうなずいて、自身の喜びとしてやるのが眞の教育であり新の教育である

交通量調査

自動車一分間に一台・オートバイ・四分間に一台

最近オートバイや三輪車・小型自動車等が非常に増えたが．先般企画室で・朝6時から夕方6時までの一日間の交通量を調査してみたところ下の表のような結果がでた。表によれば・自動車はねずみ屋角で一日約800台・端山角で約300オートバイはねずみ屋角で約200台・端山角で約100台となつている。

※端山角

種別		数量	一時間平均	一分間平均
歩行者		3.493人	291.0人	4.8人
自轉車		1.379台	115.0台	1.9台
手車・リヤカー		29〃	2.4〃	
馬車		5〃		
オートバイ		103〃	8.3〃	0.14〃
自動車		302〃	25.1〃	0.42〃
自動車内譯	三輪車	101〃	8.3〃	0.14〃
	小型自動車	44〃	3 6〃	0.06〃
	トラツク	93〃	7.8〃	0.13〃
	バス	64〃	5.3〃	0.09〃

※ねずみ屋角

種別		数量	一時間平均	一分間平均
歩行者		4803人	358.5人	6.0人
自轉車		1581台	131.7台	2.2台
手車・リヤカー		63〃	5.2〃	0.08〃
馬車		1〃		
オートバイ		188〃	15.6〃	0.26〃
自動車		811〃	67.4〃	1.1〃
自動車内譯	三輪車	205〃	17.0〃	0.28〃
	小型自動車	114〃	9.5〃	0.15〃
	トラツク	280〃	23.3〃	0.38〃
	バス	212〃	17.6〃	0.28〃

審議会委員

PTA代表	安滿了智
農業関係代表	北薗豊藏
学校代表	汰木清彦
〃	西川茂雄
〃	阪口立志
〃	久保平一郎
商工関係代表	大山綱男
町議会代表	中村四郎助
婦人代表	平山ひで
青年代表	寶藏正人
体育関係代表	脇元実雄
学識経験者	緒方明男
〃	岩元房友
〃	永吉武治
〃	本田源三
〃	新納敎義
〃	城松夫
労働関係代表	末滿次雄

◎社会教育委員

町議会代表	中村四郎助
学校代表	阪口立志
〃	汰木清彦
〃	安樂久志
〃	春田高
〃	小原田照雄
〃	新富利雄
〃	黒木盛進
〃	谷口保
婦人代表	平山ひで
青年代表	寶藏正人
商工関係代表	大山綱男
農業関係代表	北薗豊藏
PTA代表	安滿了智
学識経験者	緒方明男

編集後記

△眞夏の街角を祇園の行列が通り過ぎ、忍び寄る二百十日の頃ともなれば平木家の上に平木束が乘せられ大工の槌音がこだまする。農作を祈る農家の眼は無意識に空を仰ぎ雲の流れ風の方向を氣にする。豊作が予想される折、備えを固く、無事であれかしと……。

△学校の夏休みが終り、これとて取り上げるべき事故が聞かれなかつた事は父兄と共に喜ばしい限であつた。更に緊張して勉学を。

△幸い円滑に町政も運ばれつゝありて半歳が経り、殘る半歳も皆さん達の理解と協力によつて一段と發展するように。

△氣候の變り目、……体に充分氣をつけてお働きを祈りつゝ、こゝに弟四〇号をお贈りします。

◎納税は今度も一番窓口へ

◎完納で明るい吾が家の父さ母